

歴史倶楽部 発足記念講演会

80年前の昔「油が淵」の北側に飛行場があった！

題 目：「明治航空基地」について

日 時：6月17日（土） ①10:00～12:00

②14:00～16:00 受講無料

（同一内容で午前・午後の二回講演）

場 所：西部区民館ホール（荒子神社東）

講 師：齋藤弘之氏（安城市歴史博物館・学芸員）

主催：歴史倶楽部（正式名称：郷土史研究・記録クラブ）

後援：碧南市教育委員会

西部連合町内会・旭地区町内会長会議

問い合わせ先：西部区民館 Tel：0566-46-1935

平日（09:00～11:00 & 14:00～17:00、日・月不在）

歴史の散歩道

明治航空基地にて



ご来場をお待ちしております。

【当日の講演内容】

- 海軍明治航空基地と沖縄特攻作戦
- 用地買収と基地建設
- 第210海軍航空隊の開隊
- 明治航空基地の実際規模と配備状況
- 三河地震被災者救護と災害復旧活動
- 天一号作戦(沖縄特攻作戦)への出撃
- 搭乗員たちの気持ち
- 玉音放送
- 占領軍への引き渡しと基地の解体、再開墾
- 明治航空基地の現在
- (当日、内容に変更が生じる場合があります)

【講師略歴】

齋藤弘之

安城市教育委員会文化振興課課長補佐兼文化財係長
1964(S39)年安城市榎前町生まれ。

山形大学人文学部(史学専攻)卒業。

名古屋大学文学研究科博士前期・後期課程を修了。

平成元(1989)年4月～安城市歴史博物館準備室勤務

2007(平成19)年3月まで博物館学芸員。

安城市役所総務課納税課、社会福祉課を経て現在に至る。

◇歴史倶楽部・部員募集!!◇

(正式名称:郷土史研究・記録クラブ)

どんな分野の歴史でもかまいません。
歴史に関心をお持ちの方なら性別・年齢を問いません。

問い合わせ:西部区民館まで (表面参照)

明治航空基地について ―三河地震と沖縄特攻作戦―

令和 5 (2023) 年 6 月 17 日 (土)

安城市教育委員会文化振興課 齋藤弘之

昭和 17 (1942) 年時の戦況と基地建設の計画

用地買収と基地建設・第三四五海軍航空隊 (「光部隊」) と戦闘四〇二飛行隊

第二一〇海軍航空隊の開隊

明治航空基地の実際の規模と配備状況

滑走路・機銃陣地・航空機掩体

南地区：零式艦上戦闘機 (零戦)、局地戦闘機 紫電、艦上攻撃機 天山
北地区：艦上爆撃機 彗星、九九式艦上爆撃機 (九九艦爆)、艦上偵察機 彩雲、
夜間戦闘機 月光

搭乗員と錬成訓練

戦闘 ― B29 迎撃戦 (迎撃=迎撃)・米軍艦上機迎撃戦

三河地震被災者救護と災害復旧活動

昭和 20 (1945) 年 1 月 13 日 午前 3 時 38 分 マグネチュード 6.8 死者 2,306 人

災害救護・被害復旧活動の実際

小林清氏の活躍 (明治基地軍医) * 小林記念病院院長

天一号作戦における第二一〇海軍航空隊の所属機

搭乗員たちの気持ち

搭乗員の実際の技量

航空機特攻の“成功”率

なぜ「特攻」をしなくてはならなかったのか

決号作戦（本土決戦作戦）への準備

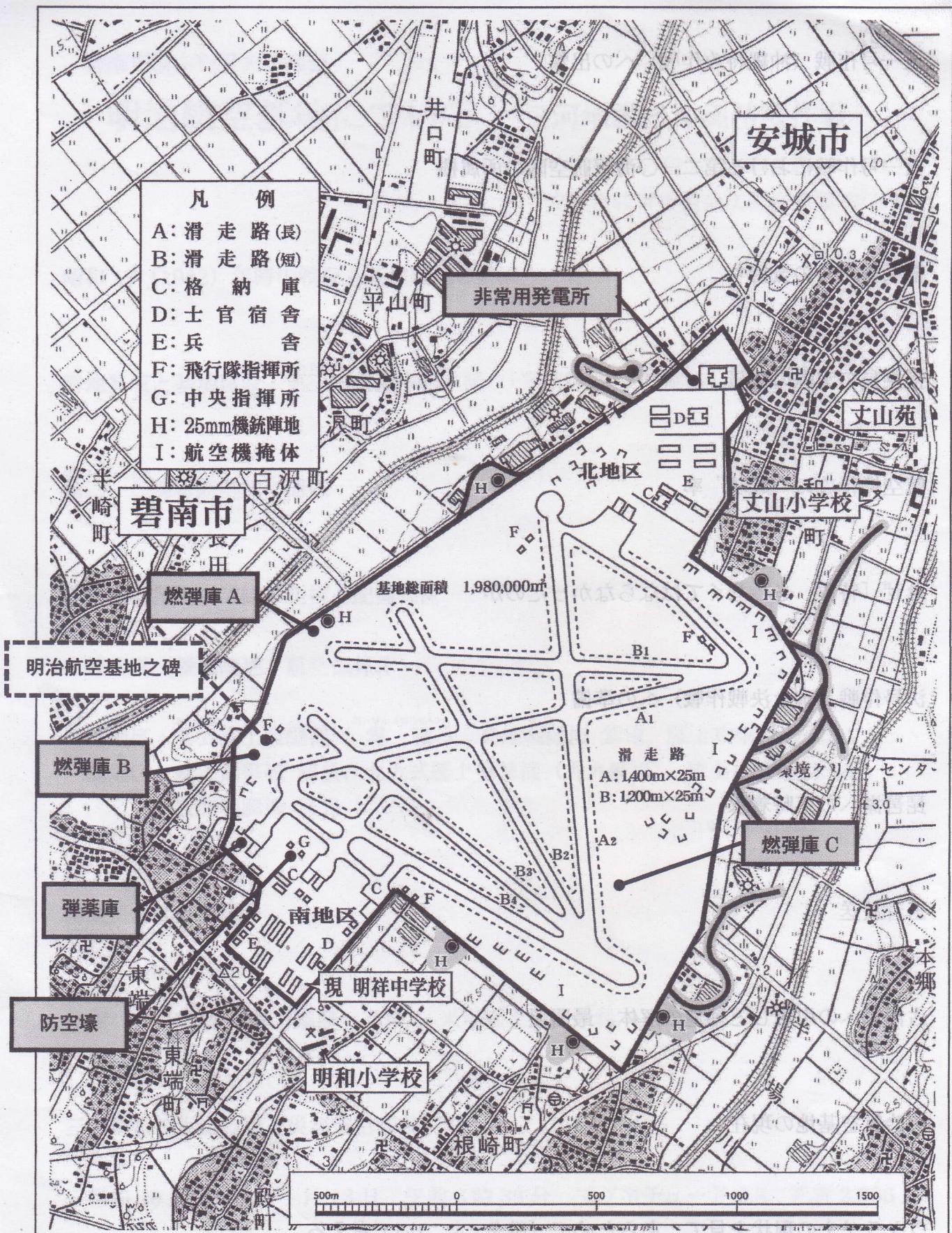
琵琶湖への不時着水

玉音放送

占領軍への引渡しと基地の解体、最開墾

明治航空基地の現在

ウクライナの現状を見て、あらためて「戦争」について考える

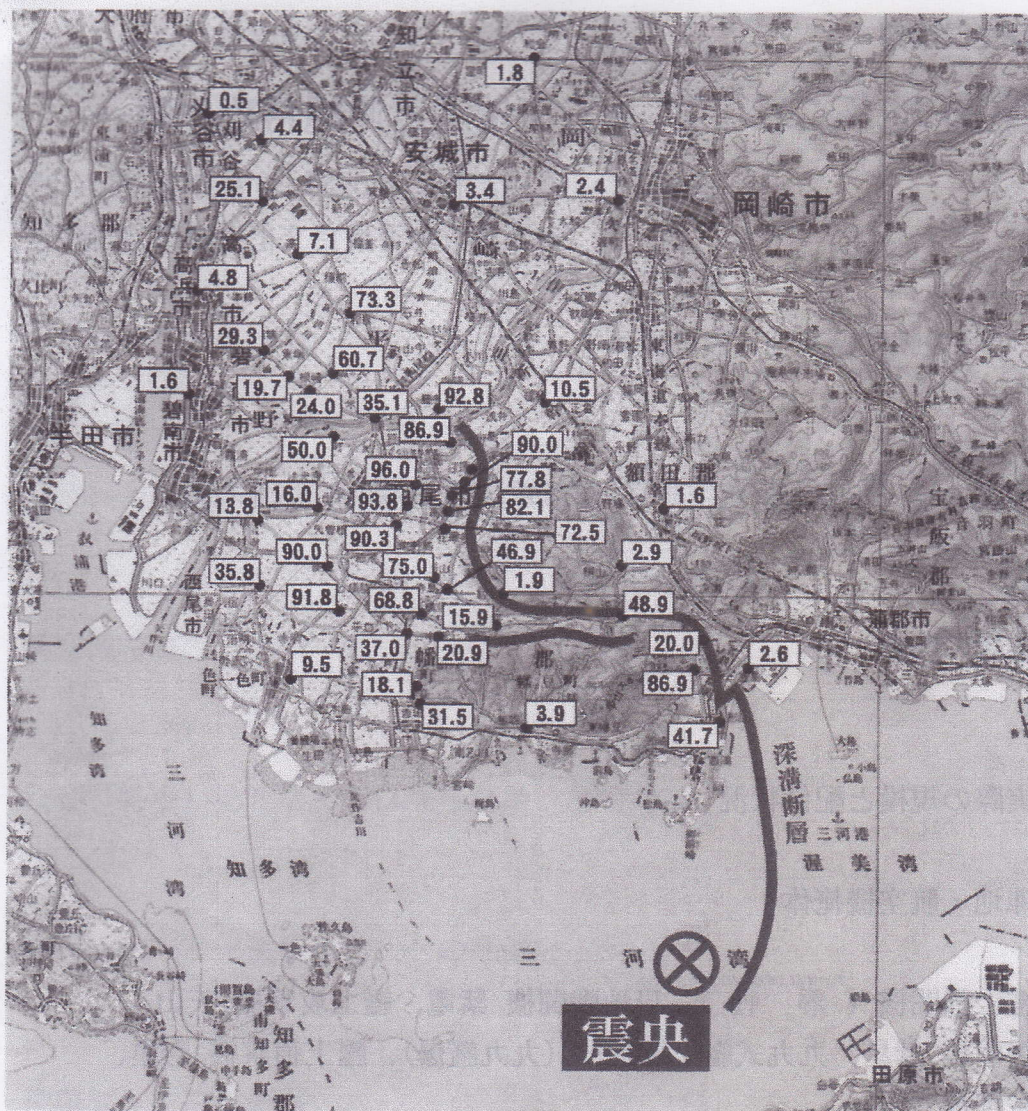


明治航空基地位置図

滑走路は、1,500mのものが2本（A1、A2）と1,200mが4本（B1～4）あった。幅は50mだが、コンクリートなどで固められている部分は25mである。聞き取り調査によれば、6本の滑走路のうち、約9割の使用がB3滑走路で、夏は南東へ、冬は北西へと、風上に向かって離陸した。残りはA2滑走路で、これら以外はほとんど使用されなかったという。

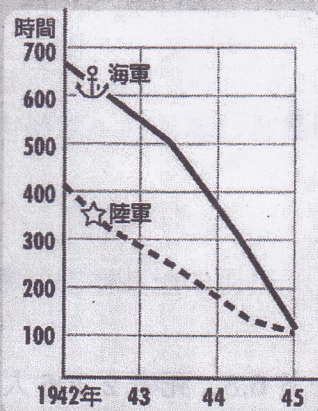
周囲には25mm機銃による陣地が6ヶ所あり、アメリカ軍機の空襲の際には応戦した。これら以外にも、10cm高角砲、20mm、13mm、7.9mm、7.7mmの各口径機銃があった。

門は南地区と北地区にそれぞれあったが、周囲が柵などで囲まれることはなく、物理的にはどこからでも基地内外へ行くことが可能だった（部外者はあえて入ろうとはしなかった）。



三河地震を引き起こした深溝断層と家屋全壊率

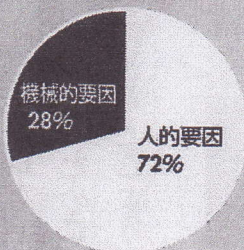
パイロットの訓練飛行時間の推移



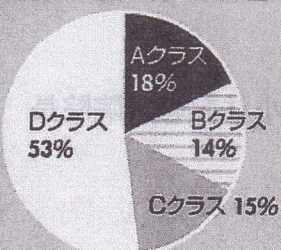
戦争末期の海軍搭乗員の練度

日本軍が特攻戦術を採用した大きな理由が、搭乗員の練度の低さにあった。円グラフは45年3月10日における主要航空隊搭乗員の技量区分と同時期の事故原因である。A～Dまでの技量区分は、44年9月1日に改正されたもので、Aクラスは飛行訓練課程終了後9か月以上の者、Bがそれ未満4か月以上。以下、Cクラス＝3か月以上、Dクラス＝3か月未満であった。なお、開戦時のこの区分では、飛行訓練課程終了後1年9か月以上の者がAクラスで平均的な搭乗員は600時間以上の訓練飛行時間を持っていた。また「訓練飛行時間の推移」を見ると搭乗員の大量養成と消耗、さらに燃料不足のため、訓練時間が削減されているのがわかる。

事故原因



偵察員(航法士)の技量



パイロットの技量

